

平成29年城下町「からつ」俳句コンクール応募句総評

平成29年城下町「からつ」俳句コンクールは、258名の方から261句の応募をいただきました。投句された俳句の主題は、唐津の春夏秋冬の四季を詠まれた句が、38%、唐津城の城郭の句が35%、天守閣の句が15%に次いで、唐津供日、唐津焼、呼子の句等が12%となっています。

観光客からの投句は秋の気候が一番多く、次いで夏、春、冬の候になっています。昨年平成28年に投句いただいた数は326句でしたが、29年の投句数は261句で65句の減となっているのは、平成28年10月から29年7月21日までの唐津城の休館による影響に依るものでしょうか。平成29年7月22日からリニューアルされた城がオープンしましたので、観光客の数は今後、徐々に回復に向かうものと思われまます。

投句の場所は現在、市内8か所に設けられていますが、観光客の投句場所は、天守閣が圧倒的に多く、次いで公園エレベーター上段、以下、旧唐津銀行、旧高取邸、アルピノ、埋門ノ館、虹の松原ホテル、郵便、FAXの順になっています。

平成29年に唐津を訪れた観光客の地域は、佐賀県を除く九州、沖縄を筆頭に関東、信越、北陸、次いで近畿、東海、市内及び県内の順になっており、事務局にて毎年、統計をとって地域別、性別、年齢別等の数を把握しております。

特記すべきは、台湾高雄市の観光客から次の様な漢詩が寄せられておりました。
到唐津古城 仰望全景 億萬情當 首來時路 この漢詩に應えて東京都の観光客からは碧海と青河に遊ぶ鳶間近か 青山河青海青松鶴が舞う の詩が吟じられておりました。

唐津城の天守閣に立って広大な玄界灘を俯瞰する時、おのずから詩心が湧いて来るのでしょう。投句を頂いた俳句それぞれの内容については日常、俳句と関わりの無い方々が、旅のつれづれに詩心を刺激されて投句箱に目を止められたと推察される句も多く、無季俳句や自由律、短歌や旅のメモの走り書きに似た記載も多くあり、判読に暫し目を止める作品も多々ありましたが、旅情あふれる作品や、旅の思い出にしたためられた作品に出逢う時、また唐津の人情に触れた喜びを綴られたメモを目にする時、観光唐津を謳う以上は、改めて「おもてなし」の心を大切に観光客を迎えねばならぬ事を教えられました。

平成30年2月

選者 ホトトギス同人・花鳥同人

唐津観光俳句の会会長 田邊虹志 記